



## 「学びの保障アンケート」へのご協力、ありがとうございました

臨時休業期間中の生徒の学習や ICT 活用の様子についてお伺いする「学びの保障アンケート」にご協力いただきありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、1 学期前半に臨時休業や分散登校期間を設けざるをえませんでした。生徒の皆さんや保護者の皆様にご回答いただき、成果と課題が見えてきました。

### 【集計結果から】

#### 「自ら計画を立て学習を進められたか」

|     | 1 学年  | 2 学年  | 3 学年  |
|-----|-------|-------|-------|
| 生徒  | 7 0 % | 5 2 % | 6 1 % |
| 保護者 | 6 9 % | 5 6 % | 6 5 % |

#### 「家庭学習の量はちょうどよい量だったか」

|     | 1 学年  | 2 学年  | 3 学年  |
|-----|-------|-------|-------|
| 生徒  | 7 6 % | 7 5 % | 5 8 % |
| 保護者 | 7 0 % | 5 6 % | 6 5 % |

#### 「ICT 機器を使った学習に意欲的に取り組めたか」

|     | 1 学年  | 2 学年  | 3 学年  |
|-----|-------|-------|-------|
| 生徒  | 4 9 % | 3 8 % | 5 4 % |
| 保護者 | 4 2 % | 3 6 % | 4 3 % |

#### 生徒・保護者の皆さんからの主な要望

「計画性を持たせて欲しい。」「提出日をもっと短期で指定してほしい。」「時間割に沿った学習をしてほしい。」「個別最適化された学習をしてほしい。」「家庭訪問や電話連絡を丁寧にしてほしい。」「オンライン授業の実施をしてほしい。」「オンデマンド授業配信をしてほしい。」「課題量が少ない。（生徒からは「多い」という声もある）。」「ICT ハード面の整備を進めてほしい。」「自分の端末や Wi-Fi 環境のない家庭への支援を考えて欲しい。」

### 【ICT活用に関わる本校の強みと課題・今後の方向性】

- 卓越した ICT スキル（Google、zoom、動画作成）を持つ教員が数名いる。
- 教科に関わる約 30 本の動画を限定配信することができたが、双方向性のあるオンライン学活・授業の実施に向けては設備的にも技術的にも課題が残るため、職員のスキルアップを図るため、夏季休業明けに「zoom」を使用したオンライン職員会議を実施した。今後も「zoom」（または「Google meet」）を扱う職員研修を行っていく予定。
- 臨時休業時等に Wi-Fi 環境のないご家庭や自分の端末がない生徒への支援を検討していく。

### 【自律に向けた学びへの取り組み】

- オンデマンドの授業配信と評価テスト（紙媒体、e ライブラリー）の効果的なつながりをつくる。
- 前時の学習問題に対する共同追究とまとめ、次の学習問題・課題把握までを 1 時間のオンライン授業で行い、家庭学習で個人追究とドリル等を行い、次のオンライン授業でまた同じ形式の 1 時間のオンライン授業を行うという流れを構築する（通常の問題解決的な授業をオンライン授業で行い、家庭学習で定着ドリルに取り組むという形の授業も含め）。
- 隔日登校の場合も、前時の学習問題に対する共同追究とまとめ、次の時間の学習問題・課題把握までを 1 時間の登校日の対面授業で行い、家庭学習で個人追究とドリル等を行い、次の登校日にまた同じ形式の 1 時間の対面授業を行う（通常の問題解決的な授業を対面授業で行い、家庭学習で定着ドリルに取り組むという形の授業も含めながら）。
- 朝の学活をオンラインで行う。
- 時間割を示し学級毎双方向のオンライン授業と学年一斉のオンライン授業を組み合わせる。
- 課題提出期間の短期化や家庭訪問や電話連絡の多数化を図っていく。

## 2学期始業式

【校長先生のお話】(テレビ放送にて)

本当に短い夏休みが終わりました。今年のように短い夏休みは初めてでした。皆さんはどんな夏休みを過ごしましたか。部活動も多くはなかったと思いますし、コロナウイルス感染症の予防をしっかりと行いながら、家族とゆっくりと過ごした人が多いのではないのでしょうか。今朝は、昇降口では笑顔で明るい声で挨拶ができる生徒が何人もいて元気がでました。いよいよ今日から2学期が始まります。熱い夏から秋を過ぎて雪の降る冬まで続きます。92日間という1年間で一番長い学期です。各学年代表の3名のみなさんがその決意や抱負を発表してくれました。～中略～ 発表してくれた3人の友達のように、2学期の目標やめあてを決めた人も多いことと思います。その2学期の出発にあたり、これからの2学期、皆さんに期待することを2つ話します。



まず、一つ目です。1ヶ月後には生徒会最大行事の「墨坂祭」があります。墨坂祭をみんなの力を合わせて成功させましょう。成功させるとは、墨坂祭を通して「Revolution ～歴史に僕らの革命を起こせ～」を、そして、生徒会目標である「Creating Stories ～一人ひとりが繋ぎ創り上げる墨坂中の物語」を達成することです。新型コロナウイルス感染症拡大防止のもと、前例踏襲ではない、まさしく「僕らの革命」となる歴史に残る「墨坂祭」となることでしょう。昨日は市内4中学校の正副会長が集まり、生徒会サミットがオンラインで行われ、各校の学校祭の工夫等が話されました。正副会長さん



たちは互いの工夫を参考にしながら、生徒一人ひとりが墨坂祭に参加できて良かったと思えるような墨坂祭を先導してくれることでしょう。ぜひ、一人ひとりが展示や発表・合唱に向けて努力を積み重ね、自分の精一杯を存分に発揮してください。そして、その過程の中で、それぞれが友を大切に、友達とたくさん話すことで、絆を深めよりよい人間関係を築きあげてください。それらが、「Revolution」につながり、「Creating Stories」になり、目標達成につながります。頑張りましょう。

二つ目は2学期の毎日の授業や生活に向けて生徒の皆さんに伝えたいことです。各クラスには墨坂中学校の学校教育目標「強く 賢く 共育ち」が掲げられ、具体的な姿が3つ記されています。それぞれ読んでみてください。(1)主体的に学習に取り組み、粘り強く追究できる生徒「強く」 (2)心も体もたくましく、賢く誠実に生活できる生徒「賢く」 (3)自分を厳しくみつめ、他を思いやり、共育ちできる生徒「共育ち」の3つです。この中から、今年度の2学期以降、今の墨坂中学校の生徒の皆さんに特に頑張ってもらいたい姿を、先生方に1学期をかけて考えてもらったところ、(1)と(3)になりました。そして、そうした姿になるために皆さんに付けて欲しい力も先生方に考えてもらいました。スライドにある「問題解決力」「他者関係力」の2つです。

もう少し分かりやすく言うと、「問題解決力」とは「皆さんが、自分から疑問や願いを持ち、その解決や実現に向けて、友と考えを交流し合い、粘り強く学習に取り組んでいく力」です。そして、「他者関係力」については、粘り強く学習に取り組んでいく中で「友の意見や考え、行動を尊重しながら、それらを参考に自分の考えや行動を見つめ直していく中で、友との関係を深め、共育ちしていく力」です。

(1)主体的に学習に取り組み、粘り強く追究できる生徒

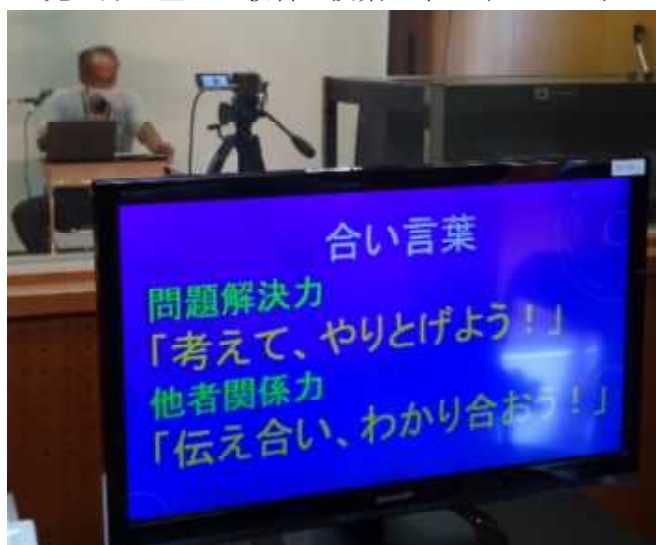
**問題解決力**

(3)自分を厳しくみつめ、他を思いやり、共育ちできる生徒

**他者関係力**

さらに、その2つの力をつけていくために、生徒の皆さんに向けた合い言葉を考えてもらいました。「考えて、やりとげよう！」「伝え合い、わかり合おう！」です。また、これらの力を付けて、学校教育目標を実現していくために、墨坂中学校の全ての先生方が全ての教科の授業の中でやっていくことを決めました。

「問題解決力」をつけるためには、学習問題と学習課題を提示し、1時間の授業の見通しを生徒の皆さんがもてるようにすること、1時間の授業の中で分かったこと、できるようになったことを確認する「まとめ」の時間をとることです。もう1つの「他者関係力」をつけるためには、授業の中で一人ひとりの考えを表現できる場をつくること、そして、先生が皆さんの意見や考えに耳を傾けるようにすること、さらに、生徒同士がそれぞれの意見や考えや行動を聴きあったり見合ったりして、関わり合う場をつくることです。墨坂中学校の全ての先生方が全ての教科で以上のことを心がけていきます。

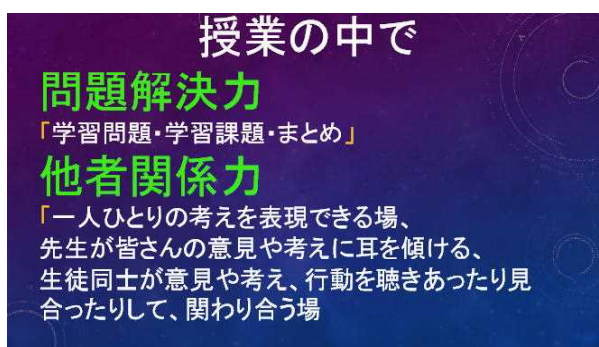


皆さんもクラス全員で授業に学習に立ち向かっていってください。クラス全員でさらなる学力をつけてください。1学期、授業参観をさせていただいていますが、多くの皆さんが一生懸命授業に取り組んでいました。先生方も頑張りますので、生徒も皆さんもクラスを上げて頑張って学習に取り組んでください。

「共育ち」とは、クラス全体で授業に立ち向かっていくことでもあります。「受験は団体戦」の合い言葉のもと、クラス全員で高校入試に、そのために毎日の授業に、クラス全員が団結して立ち向かっていくクラスは、一人ひとりの学力も必ず上がっていききました。きっと例年の3年生もそうだったと思います。

ぜひ、集中力が続かなかった皆さんは、自分に厳しく「共育ち」とはどういうことかを自己に問うて授業に臨んで欲しいと思います。がんばっている皆さんは、そうした集中力が途切れがちな友達を放っておかず、叱咤激励をして、互いに学び合う姿を高めてほしいと思います。そうした姿がクラスとして「共育ち」につながり、クラス一丸となって授業に立ち向かうことになります。

勿論、先生方は、先ほど述べたように、各授業で集中力を高めるような授業の工夫をしたり、みんなに関わりたくなるような学習問題を考え、授業の中でグループや全体等で関わり合う時間をとることをします。



3年生にとっては、自分の将来に大きく関わる進路選択の時が、この2学期にやってきます。1、2年生にとっても、あっという間にその時が訪れます。中学の3年間は本当にあっという間です。誰かのためではないのです。ぜひ自分の**自己実現**のために、今以上に勉強してください。当たり前のことですが、1時間1時間の授業を大切にすることと家庭学習を、今以上にしてください。

2学期の初日に、今年度2学期からの重点目標に関わって話しました。

この2学期からは、「考えて、やりとげよう！」「伝え合い、わかり合おう！」を、全校 496 人、先生方 45 名、みんなで実現させましょう。



## 保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せず、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月  
文部科学大臣 萩生田 光一